

# 茨木市立中津小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった   |
| ② 我が国の言語文化に関する事項  | 概ね良好な結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと      | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと           | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ C読むこと           | 良好な結果であった   |

#### (問題形式)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった   |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった

#### (その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問・・・1三 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。
- ・もっとも正答率の低かった設問・・・3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。

#### 分 析

- ・(領域)「書くこと」(問題形式)「記述式」の正答率が全国平均と比較してやや課題があるが、全体的な正答率は、大阪府や全国平均を上回り、良好である。書くことの領域では、特に文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える力が必要だと考えられる。読む力をさらに伸ばし、作者や自分の思い・考えを文章で表現できるような学習活動の充実を図る授業づくりが必要である。
- ・無解答率が全国と比べ概ね良好な結果であり、意欲や自信をもって学習に取り組むことができている児童の割合も高いと考えられる。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |           |             |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算   | 概ね良好な結果であった |
| ② B図形     | 良好な結果であった   |
| ③ C変化と関係  | 概ね良好な結果であった |
| ④ Dデータの活用 | 良好な結果であった   |

### (問題形式)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった   |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問  
1 (1)  $1050 \times 4$  を計算する。
- ・もっとも正答率の低かった設問  
2 (3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

### 分析

- ・すべての領域、問題形式において正答率が全国平均を上回った。  
特に(領域)「B図形」と(問題形式)「記述式」の正答率が全国平均を大きく上回り大変良好な結果となった。
- ・(領域)「A数と計算」の正答率が全国と比べ良好な結果であり、基礎的な学習事項が積み上がり、定着できている児童が多いと考えられる。
- ・(領域)「Dデータの活用」では正答率が全国と比べ良好な結果であり、図や表などいろいろな情報を活用することを得意とする児童が多いと考えられる。
- ・無解答率が全国と比べ概ね良好な結果であり、自信をもって学習に取り組むことができている児童の割合も高いと考えられる。

## ○●理科●○

### (領域ごと)

- |         |             |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ② 粒子    | 良好な結果であった   |
| ③ 生命    | 概ね良好な結果であった |
| ④ 地球    | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった   |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問  
4 (1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。
- ・もっとも正答率の低かった設問  
3 (1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。

### 分析

- ・すべての領域、問題形式において平均正答率が全国平均を上回った。  
特に「エネルギー」と「粒子」を柱とする領域では、大阪府や全国に比べ良好な結果となった。
- ・問題形式の中では、「短答式」と「記述式」の正答率が特に良好であり、情報を分析して、解釈し、自分の考えをもつことのできる児童が多いことが分かった。
- ・無解答率を見ると、概ね大阪府や全国平均よりも低く、自信をもって学習に取り組むことができていると考えられる。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・平成31年度は全国の平均正答率を下回っていたが、今年度も昨年度に続き、全体的な正答率が向上している。
- ・算数は日頃から問題解決学習の取り組みや宿題の確認を徹底していることが成果として出ているように思われる。
- ・正答率を全国平均と比較すると、国語に比べ算数に成果が見られる。今後も国語の力、特に書く力を育成する授業づくりの研究が必要と考えられる。
- ・算数では大変良好な結果になった。3, 4年生時習熟度別少人数指導を行ったことも成果につながっている。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・昨年度よりも、学力高位層が増え、学力低位層の割合も増えている。
- ・算数が国語より、学力高位層が多い。
- ・エンパワー層の割合は、全国平均を下回っているものの、エンパワー層を意識したきめ細やかな取り組みが今後も必要である。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

- ・読む力をさらに伸ばし、発達段階に応じた書く力をつける授業づくりの研究をする。
- ・学力低位層に対する個に応じた指導や支援を行う。
- ・算数は、全体的な正答率は良好なため、引き続きこれまで行ってきた取組みを継続していく。
- ・国語は、記述式の問題に苦手意識が高いので、児童がどのようなことを書き表すことが苦手なのか、検証したうえで、取組みの工夫と改善を続けていく。
- ・自分の思いを言語化できるような場面を様々な教科等や普段の生活の中で意識できるように促す。
- ・書く力向上のため、作文指導や、読む力を伸ばす中で問われていることに対して正確に解答できる力を育む指導を引き続き行っていく。
- ・文章から必要な情報を読み取る力をつけるため、読書活動・図書館教育を推進する。
- ・支援を要する児童への支援内容の工夫と改善について検討を行い、実施していく。
- ・書く力を育むノートづくりを研究し、授業のふりかえり等を通じて書く力を育てていく。
- ・言語活動を大切にし、定着すべき基礎言語を獲得させる取組みを推進する。
- ・個に応じた学習支援の充実を図る。
- ・家庭との連携を深め、宿題等家庭学習の効果的な活用を図る。
- ・学び合い、高め合える学習集団づくり・学級集団づくりを推進する。
- ・もっと学びたい、知りたいと思える、わからないと言える学習意欲を高める学習環境づくり、授業づくりを推進する。
- ・クラスの児童だけでなく、学校全体で児童の成長を見守る。

### <検証>

- ・全国学力学習状況調査の分析
- ・学校教育自己診断実施と分析結果の共有
- ・授業アンケートの集計